

対馬暖流は道南では沿岸寄り、道央道北では沖合を北上
対馬暖流の流量は平年並
今後の沿岸水温は平年よりもやや高めで推移

2022年5月30日～6月3日にかけて実施した日本海定期観測の結果をお知らせします。

対馬暖流は、松前のやや沖合から本道に接近し、一部は津軽海峡へ流入し、他の部分が沿岸寄りを北上しています。前回同様に積丹半島沖合には暖水渦が形成されているため、対馬暖流は渦の西方を迂回するルートを取っています（図1c）。

対馬暖流の北上流量は約1.2Sv（1Sv=10⁶m³/s）で平年並です（6月流量の平年値は1.2Sv）。

50m深水温は、積丹半島以南の沿岸寄りで10℃以上になっています（図1a）。また、50m深水温偏差は暖水渦が分布する積丹半島沖で平年よりも1～2℃高く、石狩湾沖とせたな沖で約1℃低くなっています（図1b）。

余市前浜水温は5月下旬に「かなり高い」状態になりましたが（※1）、向こう1ヶ月では気温は平年よりも低い予報となっていますので（※2）、沿岸水温は平年よりもやや高めで推移することが予想されます。

※1 <https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyuu/suion/index.html>

※2 気象庁HPより1ヶ月予報：<http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>



余市前浜水温 気象庁1ヶ月予報

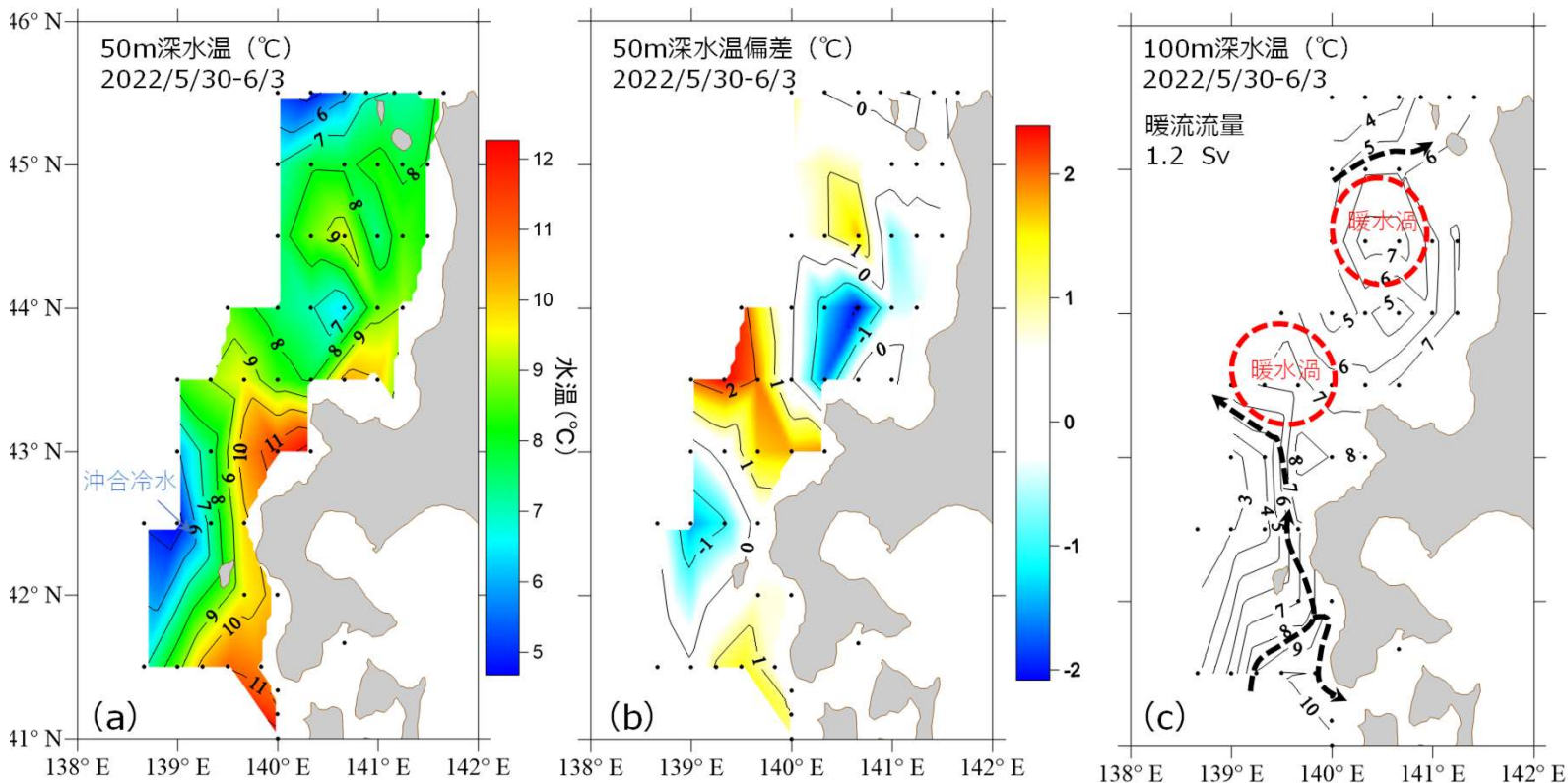


図1 2022年5月下旬～6月上旬における (a) 50m深水温 (b) 50m深水温偏差の水平分布、(c) 100m深水温の水平分布と対馬暖流の流路（矢印）。水温偏差は過去30年（1989年～2018年）の平均値から算出。流量の単位はSv（=1×10⁶m³/s）。